

第4回 鶴川図書館大好き！の会ワークショップ

庄司洋子まとめ

日時：2021年11月7日 PM2:00～5:00

場所：鶴川市民センター 第1会議室

参加者：手嶋 梅沢 守谷 桜井 廣野 高橋 藺田 清水 鈴木 庄司 以上10名

1. 応援まつりを振り返って

(鈴木) 雨天、風も強く、開催について富岡さんと協議の上、朝7時決行を決定。

HP に結構の旨をアップ。雨天時の各ブースの位置をはっきり決めていないところもあったため、はじめ大変だったのが、反省点です。チラシは2500枚作成。7保育園、2幼稚園の全園児に配布、鶴川の2図書館、市民センター、地区協議会に置き、商店街などで配布をお願いし、森さんには800枚も住宅に配布していただいた。ミニコミ誌に掲載依頼を出したところ、タウンニュースに掲載され、それを見た方が柿生からいらしてくださったのはうれしかった。

各ブースより

(ママさんブラスバンド) オープニングに今年もお願いした。コロナ下で出演が少なかったのが、喜んで参加してくださった。11時開店のお蕎麦屋さんの前で演奏。お蕎麦屋さんも、ブラスのやその他の方がお客さんとしてたくさん入ってくださったと大変喜ばれた。

(お話し会) 荒天にもかかわらず、時間にはきちんとレインコートに身を包んだ親子が何組も来てくれた。午前は14組、午後は8組くらいで、他に周りで立って見てくれた人たちもいた。図書館の前の通路にシートを敷いて会場を作ったので、図書館の様子がよく見えて、子供たちがしょっちゅう駆け込んだり出てきたりしている様子がわかり、こういう図書館っていいなと思ったのと、中も利用者さんで賑わっていることがわかった。図書館前アーケードは、6メートル道路くらいの広さがあり、定期的なここで話し会してもいいかなと思った。さんさん音楽劇団と一緒にできたので、一層楽しいものだった。今回は、初めて小学生3人が、夏休みの紙芝居ワークショップで制作した紙芝居をそれぞれ演者として発表し、小さい子どもたちは、すごい集中力で見ていた。今後も子どもたちが参加できるといいと思う。発表した子どものご家族が、おばあちゃんも入れて揃って見に来てくれたのも嬉しいことだった。

(図書館クイズ) 幼児、小学生、中高生、大人用を用意した。中学生は少なかったが、その他はたくさんの方が参加してくださり、そのためこの日の図書館の来館者数が大幅に増えたと喜ばれた。

(古本市) 荒天にしては、2万円余りの売り上げがあった。水越さんには、子供用の新本の寄付をいただいた。玉川学園の方は、カートに多数の本をのせて届けてくださった。開店を待って訪れてくださった方も多かった。富岡さんの倉庫には、前回ののこりの本がたくさんあるが、「時代物が欲しい」というお客さんがいて、富岡さんの奥様が、倉庫へ探しに行き持ってきてくださって大変嬉しかった。

(英語の本を読んでもみませんか) 初めての取り組みであったが、興味を持って見に来た親子もあり、この次は、見せる内容を工夫してやってみたい。

(本を出す夢を叶えませんか) 調布の自費出版を扱うアネスト出版。10名くらいのお客さんが、前向

きに話を聞いてくれ、有意義だったそう。

(中学生が図書館を考える) 篠田さんと中学生が作成した「私たちにとって鶴川図書館とは一浪江軒の農民図書館を訪ねて」のショートムービーを上映。出演した中学生の家族やおばあちゃんまで来てくださった。そのほか、見てくれた人と対話することができた。

(鶴川図書館を考える) 鶴川図書館の問題を知ってもらうためにこの日に合わせて作成した便り No.2 を配布。渡した人はだれ一人要りませんという方はなく、皆さんが関心を持っていることを感じた。そのほか、知恵の樹の最新号、「きんじょの本棚」のマップを配布。

どのようなものかということについての話が出たが、近くにある「きんじょの本棚」のを見ると、ただ段ボールに入れて床に置いてあったりして、本が動いている様子がなかったとのこと。

(まつぼっくりでツリーづくり) たくさんの子どもが参加。最後に「はらぺこあおむし」の大型絵本を手作りの青虫の人形を使って読み聞かせをし、子どもたちの大いに喜ばれた。

(端ぎれでしおり作り) スーパー側からアーケードに入る人に目立つように、パン屋さんの前にビールケースとベニヤ板でテーブルを作り行う。子どもたちはもちろん、親の方が熱心に取り組む姿もあった。片付け時は、子どもたちが自主的にほうきと塵取りを持ってきて掃除してくれて、子どもってすごいと思った。

(ニュースポーツ) (バルーンアート) お祭らしい雰囲気になってよかった。この次はボッチャとお話し会は隣り合わないほうが良い。歓声が響いた。

★新しい人とコラボできてよかった。

2. 10月5日の図書館館長、副館長、職員との話し合いの報告と今後について (鈴木)

10月20日に図書館がわで作成した記録を送ってきたが、意図を曲げて書かれていたり、酷いものだったので、こちらでとった音声記録からまとめたものを送った。(プリント配布)

市が、図書館として残すつもりがないことを副館長が一言述べた。どういう形で残すかは全く言わない。市民団体との協働と言うが、できることと、できないことを明らかにすべき。2022年度の予算編成にあたって、骨格予算が作られているらしい。それがどういうものか？来年2月の市長選にむけてやることは何か？

鶴川図書館が、図書館でなくなる意味は何かを今後、もう少し突き詰めた。

今後の活動として、講演会も考えていきたい。候補として、辻由美さんもあげられる。(守谷「図書館で遊ぼう」「フランスの図書館事情」などの著書がある。